

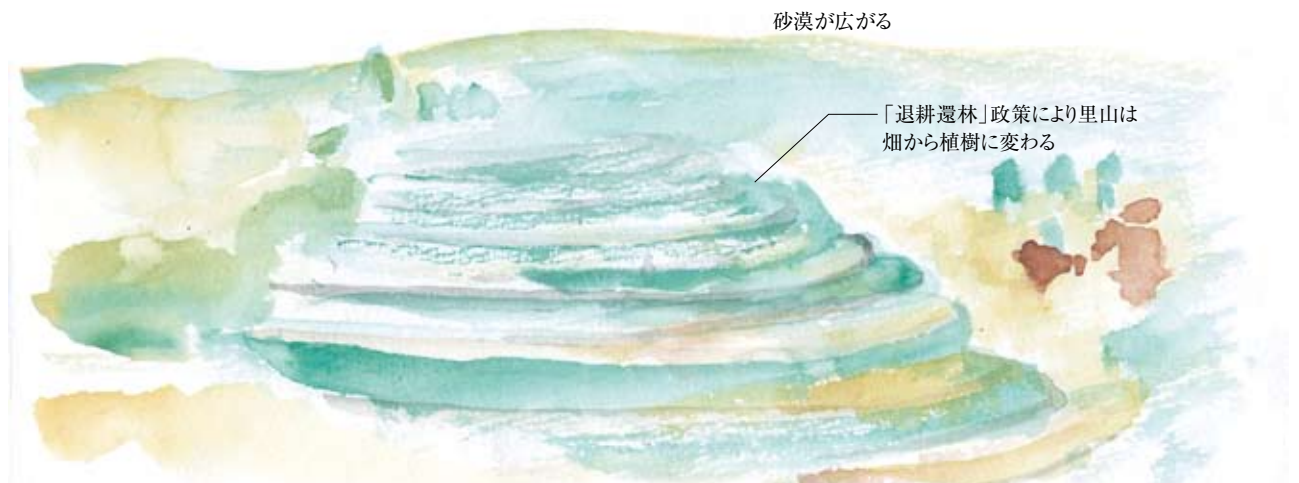
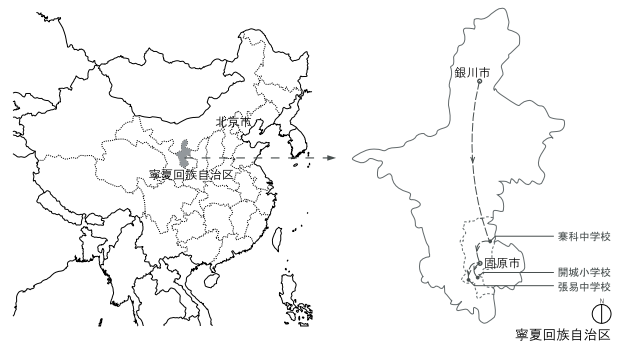
中国 寧夏回族自治区の小中学校の環境

狩野 忠正

はじめに

寧夏回族自治区は中国のほぼ中央に位置し、気候の温度差が大きい地区である。冬は寒く夏は暑いのである。自治区の首府は銀川市であり、自治区の北側にある。歴史的にはシルクロードを伝って流入した西域民族が中心となって発達した、今ものこる華いだ雰囲気。そしてモンゴルに滅ぼされた歴史がある。民族としてはイスラム教徒の回族が30%を占めている。他は、ほとんどが漢民族である。北方にある銀川市と、南方にある固原市は温度差が異なり、銀川市平均22度、固原市平均18度である。雨量は銀川市約200mmに対して、固原市約500mmである。北部は乾燥し、南部は湿潤である。大阪が温度差30度、雨量約1,300mmを考えると自治区の雨量が、いかに少ないかが、理解できるのである。驚いたことは、里山風景は無くなりつつある。「退

耕還林」政策により里山は植林が進んでいることであった。寧夏回族自治区 固原市のサイカ中学校、カイジョウ小学校、チョウエキ中学校の3校を訪問して、生徒達と交流し、学生達とワークショップを持つことができたのである。今回、学校建築と周辺環境を報告することにした。

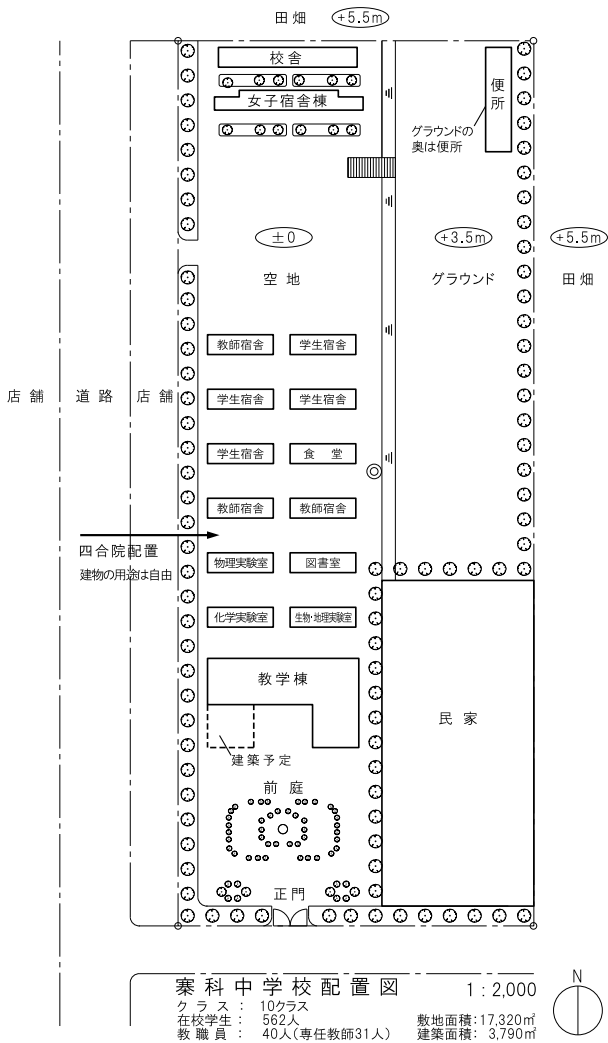


砂漠が広がる

「退耕還林」政策により里山は畑から植樹に変わる

山の頂上まで耕された美しい段々畑。政府の「退耕還林」政策により里山には植樹植林が進んでいる。

寨科中学校での授業風景



日本人講師による授業風景



校庭で遊ぶ生徒。自由な風景。



四合院配置。用途は後からついてくる。



ポプラの木が多い。同じ樹木の植栽は害虫の発生を促す

校舎と校舎の間はポプラの木が植えられている。寨科中学校にもようやく緑が見られるようになった。

開城小学校でのワークショップ風景

17名の生徒のワークショップを行った。課題は母親の顔を前からと後ろから描き、貼り合わせて立体的に見せることであった。指導にあたったのは、現役の先生方4人と、日本から通訳の中国人ゼミ生と私である。先生はしまった顔。

日曜日、快晴。教室は正面に赤い文字で大きく標語を書いている「先生の教えを守ること」など。生徒の年齢層は日本と違い、7歳-15歳と広範囲である。入学年齢が異なり、入学できない生徒がいると云うことである。

両親の職業はほとんどが出稼ぎであり、職場は工場、農業、商業と一定ではない。生徒は全寮制であり明るい。しかし、貧しいのである。

日本から課題のために工作のための、素材、道具一式持っていくことになった。このワークショップを行っていて、衝撃的なことがあったのである。それを思い出すと、深い深い悲しみとなる。子供は、今年二月に母親を亡くしていたのだ。母の顔は美しく、生き生きとしている子供の心にずっと焼きついている顔なのだ。このようなことがあって、生徒は母親の特徴を話し、そして明るく美しい。先生は子供が語らなかった、語れなかった特長を話した。あまりに提案に熱が入ったためか、窓越しに多くの父兄が見に来ていた。



母親の顔を描く



母親の後姿を説明する

各教室にある大きな赤い文字
儒教精神が行きわたっている。



課題は、母親の似顔絵のスケッチ、工作。材料は日本で準備をした。



提案風景

きらきら輝く子供達の目はどこからくるのか

寧夏回教自治区は回教徒が人口の30%を占めている。歩道で白い帽子を被る人を見かけるのはそのためである。政府が掲げた政策の「退耕還林」により、樹木は育ち水害は少なくなったと云えるが、東と西の経済格差は大きくなる一方でもある。そのため、出稼ぎ、内職を行う人が多くなった。手先が器用な家族は手芸品を売ったりしている。生徒達の家は遠く離れているので、学校に行くのが大変である。生徒達は父兄から離れ寮生活を送っている。

建物は主素材となる、日干しレンガの家に住んでいる。近くの大地がそのまま外観となり、大地から這い上がった建物の風景となり、街並みは美しいのである。

寮生活により、生徒達はコミュニケーションを計り、先輩から教えられることも多いのである。

きらきら輝く目はどこからくるのか。決定的なのは便所の構造にある。隔ての無い便所なのである。生徒達は恥ずかしいことを忘れてしまっているのだ。それは、顔の表情に出ている。



きらきら輝く表情の子供



隔ての無い便所



便所外観



便所はグラウンドの端に設置

便所は通称“ニイハオ便所”といわれているので仕切りがない。便所の位置はグラウンドの端にある。

生徒達の生活環境

出稼ぎ家族が多いことには驚きである。

手先の器用な人は動物のつくりものを売り生活費を稼いでいる。なかなか手の込んだ作品である。

回教徒は人口の30%である。豚を飼っている家が多いが、豚は神聖な動物であり食べることがない。

豚は一番良い場所にあり、草を敷いたりして、内部は美しい仕上げとなっている。豚小屋の一般解を逸脱しているのだ。

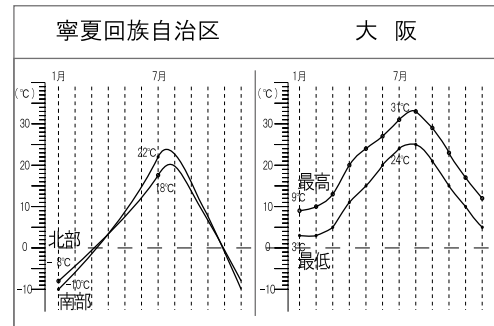
主建材となる壁は日干レンガである、レンガは現地で焼かれる。美しい街並みはすべての家が大地からはい上がっている。

貧富の差は生徒達の教育にまで影響を及ぼすことになる。西で良い成績を上げ、東で就職するのが夢である。

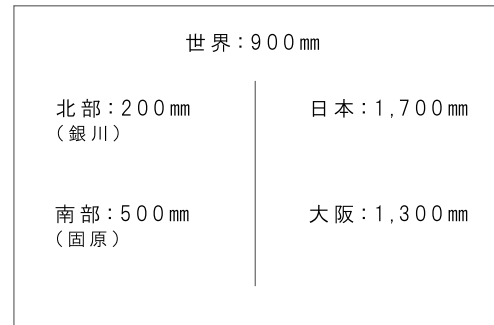
東の都市とは北京、上海となる。

所得は東5に対し、西の寧夏回族自治区は1である。

13億の人口をかかえる中国の悩みは深い。国家がそれをコントロールしている。国が情報を支配しているのである。それを解決する方法として、内戦が盛んとなり、子供達は親元を離れ、全寮制となるのである。



気温



雨量

地域	主要作物
寧夏回族自治区 (北部)	小麦、ジャガイモ、トウモロコシ、油菜、テンサイ、スイカ
寧夏回族自治区 (南部)	ムギ、ゴマ
大阪	しゅんぎく、ふつき、みつば、えだまめ、キャベツ、なす、えびいも、たまねぎ、くり、さといも、きゅうり、ぶどう、みかん

農業

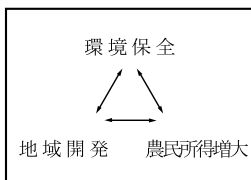


雨量は少なく、土で出来た家が多い。日干レンガの屋根が生徒の住居である。

まとめ

1. 退耕還林政策

生態環境の破壊が進み表土流出が深刻な地域では、傾斜地の耕地を中止させ、植林、植草の推進をする。傾斜25度以上の耕地は生活環境を回帰させようとする政策である。その為、農業による里山風景はなくなりつつある。



2. 経済格差

「退耕還林」政策により、今まで農業に従事していた里山がなくなるにより、政府は農業経済を支援している。農作物を支給し、植林にあたっては管理請負制度を実施している。しかし対策は十分ではなく都市との格差が生じている。



3. 植林保護政策

草木を動物が外皮を食べていく、若木は枯れてなくなりヒツジ、ヤギを外での飼育を禁止。「退耕還林」は同じ樹木ーポプラーのみを植えていく、そのためカミキリ虫が発生し、樹木は立枯れるのである。混植こそ害虫駆除になる。



4. 出稼ぎ父母が多く、子供は寮生活

広大な土地のため両親は出稼ぎを行っている。貧困地域の特色である。生徒は寮生活により、自立の道を考えている。



5. ガンガン輝りつける太陽

太陽電池の利用が盛んである。雨量が少なく土は黄色をしている。すぐ北側はモンゴルである。



6. 学校、工場、住居の外壁に使われる日干しレンガ。

大地から、はい上がった色、建築は地域に根ざす。風景にマッチした地域の創出となる。



7. 祭り、演劇、音楽が得意。

風土からくる民族性と云える。風土は段々の山並みとなる。対面する大地は、音響的に優れている。遠くでの話し声が手に取るように聞こえる。



8. 政府役人

北京から派遣された役人は、成績優秀である。外国語が堪能である。そして数年で交替する。絶えず人を入れ替えることにより、力を保っている。



9. 歴史に感心

固原 博物館 野外縄文遺跡を見に行った。展示された文物は日本と異なり、手を加えることなく、自然体。歴史を知り未来を予想する。歴史観は日常生活の中にある。



10. 輝く顔

私は子供の顔を見て、日本と表情の違いを思った。何が影響しているのだろうか。それは生徒達の全寮制にある。コミュニケーションを計り、生活の全てを小・中学校で教わるのだ。そして、便所の構造に通ずるのがわかった。ニイハオ便所と云われ、隔ての壁がない。

